

MIYU



Co-creation

宮城大学
研究推進・地域未来共創センター

MIYAGI UNIVERSITY

Center for the Cooperation of Community
Development and Research Promotion

Contributing to the development of our region

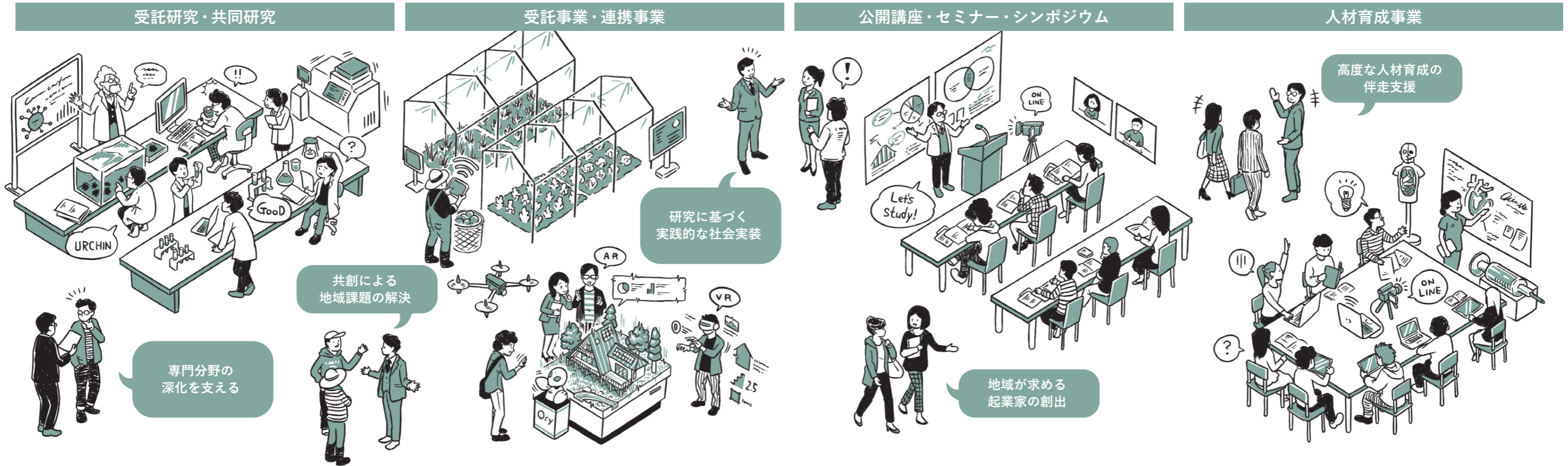
—

Collaborative research & contract projects

Co-creation projects for sustainable society

Open lecture & seminars

「知の拠点」として実践的な教育・研究活動を活かし社会環境の変化に対応した問題解決を目指す



研究を支え、強化し、発信する

研究者が世界規模の社会課題を俯瞰的に捉え、個々の研究分野を探究し、未だ解明していないことを明らかにすることで、新たな社会の礎が構築されます。本学が地域に貢献するためには、基盤となる研究に基づく実践的な社会実装が重要となります。一方、山積する社会課題に対しては、多くのステークホルダーの関わりが必要であり、異分野連携によるイノベーションの創出が必須な時代となっていることから、個々の研究者が対応するには限界があります。そこで、当センターでは個々の研究者が有する専門分野の深化を支え、よりインパクトの強い研究へ高めるための支援を図り、学外へシーズを発信し実用化に向けたプロジェクトへ進展させることで社会実装に貢献します。

地域との共創で豊かな未来社会を

地方においては少子高齢化や若者人材の流出、基幹産業である一次産業の衰退など、持続的な社会基盤の構築が課題となっています。これらの課題をどのように解決するかだけでなく、未来の豊かな社会を構築するために、どのような産業や地域活性化モデルが有用かを、行政のみではなく地域が構想し、持続する仕組みを実現することが重要です。そのため、当センターでは、大学や地域、企業など多様なステークホルダーとの共創プロジェクトを展開し、ともに考え、ともに学び、ともに実現することで、地域課題の解決に貢献します。

地域を担う次世代の人材と産業を育てる

従来の産業構造が変化する中では、働く人の考え方も多様化しており、未来の豊かな社会を構築するためには、新たな事業を創出する「起業家精神（アントレプレナーシップ）」を有した人材の存在が重要です。本学は、地域社会が求める新しいタイプの専門知識を持った人材を育てることを目指しており、アントレプレナーシップ教育

のカリキュラムを有しています。また、地域の看護人材の確保が課題となっており、本学から地域に定着する看護人材を輩出するとともに、就職後の人材育成にも力をいれております。当センターでは、教育プログラムや講座・研修を通して、高度な人材育成の伴走支援を行います。

研究推進・地域未来共創センターの活動

宮城大学は、「高度な実学主義」をかけた実践的な教育研究を展開しており、公立大学として地域に貢献することを理念としています。本学においては、研究推進と地域との共創を一元的に推進する組織として研究推進・地域未来共創センターがあり、本学の研究力を強化するため学内の研究環境の整備や研究プロジェクトの企画、学内外との調整、外部資金獲得を支援するとともに、自治体等の地域課題に対して本学の研究シーズをマッチングし、課題解決への展開を支援しています。当センターは、研究力の向上を推進するリサーチ・アドミニストレーター（URA）としての機能強化と、産学連携を推進するコーディネーターにより、学内外においてプロジェクトの企画相談から渉外・調整、プロジェクト支援（研究資金獲得、プロジェクト運営）、知財化・実用化支援を行っています。また、自治体からの依頼に応じて委員・講師を派遣するとともに、専門研修の開催やセンターへの自治体職員の受け入れ等により高度人材の育成を図ります。

研究推進・地域未来共創センター長 メッセージ

東北地方は、美しい自然環境と豊かな地域産業に恵まれ、長い歴史を積み重ねてきました。平成23年3月11日に発生した東日本大震災から10年以上が経過する中、被災地における様々な復興事業も進み、新たなまちづくりも始動してきています。宮城県は、「富県躍進！“PROGRESS-Miyagi”～多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して～」の理念に基づく「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」を推進し、「持続可能な未来」の実現を目指しています。本学においても、「第3期中期目標」に基づく「グローバル」の視点を掲げ、地域と共に発展していく公立大学としての使命を果たしていくために、令和3年4月に「研究推進・地域未来共創センター」を創設し、研究推進や地域連携に関わる活動を展開して参りました。本センターの使命は、宮城大学の教育や研究に関わる知的財産を活用し、地域の企業、自治体、学術・研究機関、金融機関等との連携を進めながら、新たな研究開発や地域未来共創プロジェクトを推進していくことにあります。当センターは、本学の教育・研究の成果を地域に還元し、地域の未来を共創するプラットフォームを構築し、東北・宮城の持続可能な未来を地域とともに実現して参りますので、引き続き、さらなる志の連携をお願い申し上げます。



研究推進・地域未来共創センター長
風見正三教授

事例紹介

本学の教員が有する研究シーズを活用した各種事業についてご紹介します。

受託研究・共同研究・受託事業・連携事業では、企業や自治体、各種団体等から受けた相談に対し、当センターのコーディネーターが課題の解決に適した本学教員とのマッチングを行い、契約や進捗管理を行います。

受託研究・共同研究

研究シーズを高めるために外部資金を獲得して研究を行います。外部資金には政府系の団体や財団等からの競争的資金と企業から提供を受ける資金があり、大学間や産学官連携等により取り組みます。企業との産学連携では製品・サービスの開発などが、自治体との連携では地域課題の解決に向けた研究開発などがテーマとなります。

JST 共創の場形成支援プログラム「海山里のつながりが育む自然資源で作るカーボン・サーキュラー・エコノミー拠点」

地方でカーボンニュートラルを達成するために、地域資源を活用して経済を活性化しながらネガティブエミッションや未利用資源の再資源化・高度化に取り組むことが重要です。フィールドである南三陸町は分水嶺で海山里がつながっており、資源の循環による藻場の再生などを社会実装し、持続可能な「ひと・なりわい・まちづくり」を目指します。



ペーパースラッジ灰の有効活用策に関する検討

古紙を原料とした再生紙の製造を営む上山製紙株式会社（岩手県一関市）からの依頼を受け、同社が排出する紙汚泥（ペーパースラッジ）を焼却した灰の有効活用策について検討するため、食産業学群の北辻教授の指導の下、建設会社や仲介者である金融機関を構成員とした検討会を構成し軟弱土に対するPS灰の硬化剤利用の検証、緑化基盤材としての活用に関する研究等を行っています。



受託事業・連携事業

主に自治体による施策検討やプロジェクトの企画・実施に関する事業を受託し、学内の教員や学生との共創をコーディネートし、地域課題の解決を目指します。連携事業では、主に連携協定を締結している企業・自治体等と連携して、イベントの企画・開催や人材育成の事業を行います。

仙台市消防局とのプロジェクト (学生と連携した防火防災等予防啓発事業)

仙台市消防局からの依頼を受けて、学生による防火防災等の予防啓発に向けた作品の企画・制作および大型商業施設での展示を行い、多くの市民に火災予防の普及啓発と防火防災意識の向上を図る事業に取り組みました。プロジェクトの実施にあたり、コーディネーターが学内外のステークホルダーとの調整と運営支援を行いました。



農林水産業みらいプロジェクト

名取市関上漁港で水揚げされる「関上赤貝」の資源保護とブランド力向上を目的として、関上赤貝組合、水産加工組合、名取市、東北大学、宮城県、宮城県漁業協同組合、国立研究開発法人水産研究・教育機構などをはじめとした産学官民が連携し、非破壊で赤貝の身色を識別・選別する技術開発、および赤貝の種苗簡便生産システムの構築に取り組んでいます。



本学は、看護学群・事業構想学群・食産業学群・基盤教育群の3つの学群と1つの群から構成されています。毎年それぞれの群から提供された研究シーズを活用し、地域の皆さまに教育や研究の成果を広く公開しています。近年ではオンライン公開講座として本学の研究シーズを毎年ウェブ配信するとともに、研究・共創フォーラムを開催し、シーズの発信を行っています。

公開講座・セミナー・シンポジウム

公開講座

研究シーズを発信するオンライン公開講座や、学群ごとの公開講座を開催しています。看護学群では、本学と連携協定を締結している独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）仙台病院との共同開催により、令和4年度は、認知症や糖尿病について、令和5年度は、足や歩き方の見直しなど、病気への備えや健康づくりなどといった様々なことをテーマとして、同病院の認定看護師や、本学の教員による体験型講座や講義を実施しました。



自治体向けセミナー

本セミナーは、多くの自治体が抱える共通の政策課題をテーマとして取り上げ、毎年開催しています。宮城大学が持つ知見や経験、ネットワークを活かして、自治体職員の皆さんが実務に役立つ知識や手法を学ぶとともに、自治体職員同士の交流の機会となることを目的としています。



研究・共創フォーラム

本学の研究シーズや地域との連携事業等の成果を学外に発信し、様々なステークホルダーとの共創の可能性を広げ、更なる地域貢献の機会を創出することを目的としています。令和5年度はハイフレックス方式により開催しました。3年目となる今回の開催では、県内外から過去最高となる多数の参加があり、会場やオンラインで参加された方から多くの質問や意見が出され、活発な議論が行われました。



人材育成事業

看護人材育成・支援事業

看護職に従事される方の専門研修を、毎年複数のテーマで対面とオンライン併用で開催しています。「看護研究指導者研修」は、各施設で行っている臨床看護研究を指導する立場にある看護師に対して、指導力の向上を図ることを目的としています。また、「新人看護職員研修新任教育担当者研修」「新人訪問看護師育成研修」の各プログラムも開催し、看護人材の育成と向上を支援しています。



シーズ集



「宮城大学シーズ集」は、本学の教員が、どのような研究をしているか、その研究成果が、どのような産学官連携の可能性を有しているかについて、冊子とウェブサイトにより紹介しているものです。本学の教員の情報を「健康・医療・看護」「まちづくり」「デザイン」「食品機能・加工」など、8つの分野に分けて掲載しています。



連携協定

本学と教育・研究・人材交流等で連携する団体等と協定を締結し、共同研究や共創プロジェクトを行います。連携協定を締結することで、新たな研究成果の創出や地域活性化による地域課題の解決、次世代の人材育成に資する本学の人的・知的資源および研究成果等の活用を図ります。

【地方自治体】

宮城県、大崎市、気仙沼市、白石市、南三陸町、仙台市（泉区）、加美町、美里町、大和町、利府町、角田市、栗原市、富谷市、蔵王町など

【企業・団体・公的機関等】

兵庫県立大学、株式会社七十七銀行、宮城県議会、JICA 東北、国立研究開発法人水産研究・教育機構、三菱地所株式会社、JCHO 仙台病院、社会福祉法人仙台市社会福祉協議会、人来田学区連合町内会、宮城県信用保証協会など



相談手順

1 相談 Consultation

コーディネーターが相談者から相談事項をお聞きします。相談内容の秘匿は厳守します。

2 検討 Examination

相談事項と学内教員等の専門分野とのマッチング性を考慮して、教員等による対応の可能性について検討します。

3 マッチング Matching

コーディネーターが相談者と教員をマッチングし、相談事項への具体的な対応策について、ともに検討します。

4 契約 Contract

具体的な対応策が得られた場合は、共同研究や受託事業などの実施に向けた契約を締結します。契約では、実施内容のほか期間や予算を設定します。

5 実施 Implementation

契約内容に従って、調査や研究を実施します。コーディネーターは関係者間での情報共有や進捗管理を行います。

6 展開 Development

コーディネーターは調査や研究結果の報告にとどまらず、活動の発展へ向けて外部資金の獲得などのフォローアップや必要な支援を行います。

コーディネーター

本学のコーディネーターは、電話やメールなどで頂戴した相談内容について検討し、相談者を本学の教員へとつなぎ、契約から実施に至るまで、幅広く対応します。研究においては、外部資金の獲得に向けて学内外の調整を図り体制を構築するとともに、プロジェクトの運営を支援し、産学連携を推進します。



副センター長/コーディネーター
庄子真樹



コーディネーター
中嶋紀世生



コーディネーター
菅原心也

PLUS ULTRA-

ここから多彩な交流・連携がはじまります

多彩な交流・連携を始める場として設置した大和キャンパス交流棟 2階の PLUS ULTRA- は、産学官連携に関する新プロジェクトの発表、教員や学生が取り組んでいる新研究分野の発表など、学内外に発信していくオープンな場所として使用します。また、学生から企業・地域住民までのあらゆるステークホルダーに向けて、オープンにゲストを招いた特別講義やイベント、地域住民を交えたワークショップ、企業主催のセミナー、カンファレンス・講座など幅広い用途で使用します。



アクセス

研究推進・地域未来共創センター

大和キャンパス
〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1（交流棟1階）
Tel 022-377-8319 Fax 022-377-8421

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約15分、「泉中央駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「泉中央駅」バスプール3番又は6番から、宮城交通バス「泉パークタウン」行き（宮城大学経由）で約30分～35分、「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

「仙台駅前」バスプール2番から、宮城交通バス「宮城大学」行き約50分、「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

研究推進・地域未来共創センター太白分室

太白キャンパス
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立二丁目2番1号

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約10分、「長町南駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「長町南駅・太白区役所前」バスプール4番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約20分、「宮城大学太白キャンパス前」下車

「仙台駅前」バスプール7番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約40分、「宮城大学太白キャンパス前」下車





宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



宮城大学 研究推進・地域未来共創センター

発行：2024年3月 発行者：宮城大学 研究推進・地域未来共創センター

TEL: 022-377-8319 FAX: 022-377-8421 E-mail: chiren-office@myu.ac.jp